> 突破口としての提起 / 記憶と想像「なにわ百景⇔未来景」 大阪大学総合学術館前館長 大学院文学研究科教授

> > 橋爪節也

# [キーワード1]基調としての考え方

- ─街を語るに際して重視していること / 記憶と創造
  - ・記憶を消去すると創造はおぼつかない
  - ・創造は試行錯誤の繰り返し(記憶)に由来する

## [キーワード 2]地域の歴史と文化的蓄積の活用

- 地域の人間が「それを」理解している あるいは 理解しようとしていること
- ─ 「それらを」経済的な単なる消耗品として消費しないこと
- ─ 「それらと」誠実に向き合うリテラシーの問題

# [キーワード3]イメージを喚起する「言葉のリテラシー」

- 「がめつい」は 大阪の言葉か \$
  - ・劇作家 菊田一夫(1908-73)が描いた4幕6場の長編戯曲
  - ・1950年代半ば 釜ヶ崎で暮らす人々がモデル 1959年10月5日の初演から日本劇団 史に残るロングラン記録(1983年 劇団四季-キャッツに破られるまで不動の金字塔)
  - ・1960年 三益愛子 森繁久弥 高島忠夫 らのキャステングで映画化も
  - ・似たような文脈にある言葉 土性骨 (どしょうぼね) どこんじょ (ど根性)
- 一作家 小野十三郎による処断『大阪-昨日・今日・明日-』: 角川新書 1967 年
  - ・「がめつい」から連なる高度成長期の映画やテレビによる「大阪らしさ」に強く抵抗
  - ・どれも「本来の大阪ではない」「大阪を見る地方人の感傷」と処断
  - ・わが大阪庶民にも 風俗 / 風習 / 趣味 その他万端にわたって だれかの口車にのって いると気がつかず 大阪ふうや大阪的であることを みずからの必要以上に自慢したが る傾向がある と指摘
  - ・高度成長期のスケープゴート役を担う「懐の深さ」がアダに(偽イメージの定着化)
  - ・<アニマルファッション調査:博報堂生活総合研究所調べ>による「大阪 東京の主要 駅改札でのアニマル柄の服やバッグを身に着けている人」調査<10万人対象>

2005年大阪 3.5% 東京 4.3% 2009年大阪 2.4% 東京 2.8%

「ヒョウ柄は大阪の専売特許ではなかったのか・・・」メディアによって加速され変形 されてゆくイメージの実態が 限定的とはいえ 確認できる

- ・偽イメージによって 都市大阪の可能性が一方的に消費され尽くす 危険 警戒感
- ・言葉は薬品にも似たり で 本来から違うものに行き過ぎると その「劇薬」を解毒する ための反作用が必要となる
- ◎"大大阪"という言葉による解毒作用 / 伝えなければ「記憶は消滅」する

- 一 "大大阪" という表現は 文化的・精神的側面を併せ持つ
  - 一規模的には大正 14 年(1925)4月1日 第 2 次市域拡張で面積・人口とも東京市を 抜き日本一に / NY ロンドン パリ ベルリン シカゴ に次ぐ世界第 6 位と公称した
  - ―その時代の確かな文化は「これからの時代」のキーにもなろう

### [キーワード4]シンボルの創出

- 一精神の支柱 プライドとしての"大大阪"
  - ◎"大大阪"のシンボル 大阪城の建設 昭和6年(1931)
  - ◎シンボルとは何か 「扇町マナビバ」は地域のシンボルを目指すのか
  - ◎歴史的経緯と文化的文脈からの未来とは?
  - ◎量的拡大・規模の肥大と一線を画すシンボルとは?
  - ◎「扇町マナビバ」とは?

# [キーワード5]大阪市によるイメージ戦略

- ◎大阪市が昔から自覚している今日まで続いている基本イメージ
  - 一大阪市電気局・産業部制作:映像「大大阪観光|昭和12年(1937)市指定文化財
  - ─「大大阪観光」の映像から流れる滋味豊かなナレーション
    - □ここに産業の都 モダン都市の内に流れる古き難波の姿をしのび 歴史の都として由緒ある過去の姿を見 一面また観光都市としての大阪を鑑賞することは旅する人にとって またひとつの憧れでありましょう□
  - 一当時のナレーションが語る大阪という都市の特色は 今これからも目指すべき「都市像」そのものである / 「観光」を位置づけるも 後順位に位置させることへの深慮
    - 1. モダンな産業の近代都市
    - 2. 難波宮 大坂城など歴史あるとし
    - 3. 観光都市

### [キーワード 6]素数の都市 素数の街

- ◎素数:真似ることのできない 大阪にしかない 歴史的蓄積と文化資源
- ◎ただし近年:量的拡大・規模の肥大への呪縛に囚われ 「素数」が萎えつつある (安直なイメージの「大阪だけ」で売りさばく 平凡化 / 中心の喪失)
- ◎大阪が歴史的に形成してきた文化的強み素数としての個性を再認識すべし! (素数の商店街 天神橋筋商店街)

## [キーワード 7]記憶の重要性

◎史実:歴史的資料による考証 地味な作業の積み重ね 底堅い凄み・強み

- ◎イメージ:消費性向の中で実際とは異なる「増殖」や「誤解」が跋扈する
- ◎大阪:「誤解」を招き入れやすい土地柄 一方で人間的魅力「まあ えぇか」の滋味
- ◎都市大阪:そのものが消費促進添加剤ではない / 可能性豊かな公共財として捉える
- ◎メディア・リテラシー:「このタイミング」で「扇町マナビバ」に託される文脈とは?

### [キーワード8]街の魅力一旋回性

- 一「道頓堀の雨に別れて以来なり」
- ─ 「頬(ほう)かむりの中に日本一の顔」
- 「上燗(じょうかん)屋へいへいと逆らわず」
- 南地(道頓堀・千日前・戎橋筋の総称)を舞台に これらの名句を次々と編み 川柳を「いまの世」に継承せしめた名コピーライター 岸本水府は
  - ・「心斎橋筋につながっている南地」と語り
  - ・銀座は「花やかな灯りをうつす川」や「芝居」がなく
  - ・浅草は「千日前をふくらせただけ」
  - ・すなわち 「道ブラ」が優れている理由を「旋曲運動」ができること 「日の字」「田の字」を書くように散策できる と 評した
- flaneur (フラヌール)・・・遊歩が近代のパリで登場したような回遊性 性格の異なる繁華なる場の連続体
- 一では・・・直線的な天神橋筋商店街はそれでいいのか 直線的のままで未来があるか?
- -- 扇町マナビバを設けることで旋回性は生まれるか?

#### [キーワード9] 「浪花百景」の天満一帯からマナビバ

- ─その場所+現在の「北区域」=19景(末尾参照)も描かれている
- ━数多く存在する「その場所」と「その付近」の「原風景と営み」
- 一さらに・・・時代が確定できるリアルに注目
- 一わけても「その時代 / その場所」が明確に描かれている「堀川備前陣屋」
- ─ 「絵を見る」のではなく 『絵を読む』
  - ・安政六年(1859)岡山藩は西宮付近の台場防衛を命じられ 堀川の蔵屋敷を一時的な 駐屯地とした / 文久元年(1861)幕府より蔵屋敷の東側 西成郡川崎村に一万坪の土 地を与えられ陣屋を構える / 文久三年(1863)に京都警護を命じられるまで大坂湾の 防衛 / 等々 歴史的にも未来的にも じつに可能性豊かな この『マナビバ』から なに を継承し新たに何を発祥させるのか

#### [おわりに]もうひとつ・ふたつ

一絶えてしまっている「雑誌:大阪人」

- ・昭和 22 年(1947)創刊の歴史も 平成 24 年(2012)「増刊・古地図で歴史をあるく」で完全休刊 / が いま 古地図を手に「ブラタモリ」するようなコト 瀬戸芸のような「物語の旅」を再評価する確かさ / コロナ後の要件要素の可能性 / なのに「大阪人」が消え 大阪の書店で昭和 61 年(1986)発 歴史浅い「東京人」を見届ける残景無情
- 一文化的指向性 / アート分野の表現力に 確かな歴史観と未来性を抱く

<原寸復刻「浪花百景」集成:橋爪節也 / 創元社>によれば

百景中 現在の北区エリアには 19 景ある これと連関するようなカタチで 他の様々な「景」 とつながっている 都市大坂・大阪の可能性を「景」から読み取ってみることにする

堂じま米市 / 天神祭り夕景 / 源八渡シロ / 北妙けん堤(正善院)/ 天満市場 天満天神地車宮入 / 覚満寺之夕景 / 堀川備前陣家 / 三大橋 / 天満ばし風景 あみ嶋風景(近景の天満橋上)/ 川崎御宮 / 浜村鬼子母神 / 北瓢亭 / 北之太融寺 大江ばしより鍋しま風景 / 川崎ノ渡シ月見景 / 天満樋の口 / 長柄三頭 一以上、原文ままー

#### <備考>

□2020 年度 フォーラム 扇町マナビバ から [記憶と創造]へ / 2021 年度から5カ年(案)

- ① 「19 景+数景」をタタミ 1 畳大に拡大し パーテーションに掲げ配置 これら「景」を 読み込む中で「大坂・大阪」を考え 向こう 5 カ年で「景」を追加 それら試行と思索を 一年毎に繰り返す中で『未来景』に繋ぐ構想を練る
- ② 2021 年 11 月頃→会場(北区民センター)仮組みレイアウト→「『景』についての読み込み:ブラ百景」を行う→橋爪先生のガイド+旅クラブ 米谷・森両名の切れのあるツッコミ=ブラ百景→ユーチューブ発信(下記、本番展示への事前告知として)
- ③ 2022 年 3 月初旬 本番展示・開催 3 日間(会場同・橋爪節也プレゼンス対談含む)
- ④ 同期間のコラボ開催 / 「マナビバ フラ カンファレンス (仮称)」2日間
- ⑤ もうひとつの旅クラブのミッション:この5カ年の積み重ねの中で『未来景』の具体化 へ→「マナビバ」具体化を企図する中で 子ども参加型イベントやアート型イベントを 追加開催することも視野→例えば 毎年 10 月中~下旬開催の「北区民カーニバル」における企画・実行があり得る
  - 注) これらの実施スキームは 2020 年度 フォーラム 扇町マナビバ と (概ね) 同様を想定